

白杵市 施策評価シート
(令和2年度)

評価担当者	課名	氏名	内線
	保険健康課	杉野 等	1140

コード	I-1-1	施策名	生涯を通じた健康な生活習慣の推進
施策の方針	健康寿命を延ばす		
まちづくりの方針	生活の土台を築き、笑顔あふれる市民が暮らすまち(健康福祉)		
5年後のめざす姿	次世代を含めたすべての人が健やかな生活習慣を身につけることが健康寿命を延ばすことにつながるため、子どものころから、健康づくりの基礎となる基本的な生活習慣や食習慣・運動習慣を身につけることができるような取組を行います。健診を受けやすい体制を整え、健診受診の大切さを伝えることで受診率の向上をめざすとともに、健診の結果を生活習慣の改善にいかし生活習慣病の発症や重症化予防につながる支援を行います。 すべて人がいきいきと自分らしく、生きがいや希望を持って暮らすことができるよう、休養の大切さやこころの健康に関する知識の啓発等に取り組めます。		
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命延伸のための現状把握と課題分析を行い、課題に応じた対策を検討実施します。特に、生活習慣病の発症予防のため、若い頃から健診を受け、健診の結果から生活習慣の改善に取り組めるよう全ての世代に対し健診の受診勧奨とその後の保健指導を行います。 子どもの頃から健康づくりの基礎となる基本的な生活習慣や運動習慣を身につけることができるよう、健康づくりに関する正しい情報の普及啓発に努めます。 		

<指標>

新規指標	指標名	説明・算式・引用	実績の推移							
			単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
お達者年齢		大分県福祉保健企画課が公表している白杵市の健康寿命(お達者年齢)	目標	年齢	男性79.49 女性84.45	男性79.73 女性84.58	男性79.96 女性84.71	男性80.21 女性84.85	男性80.45 女性85.00	
			実績		男性79.05 女性86.23	男性79.26 女性84.32				
			達成率		男性98% 女性100%	男性98% 女性100%				
脳血管疾患の標準化死亡比の減少		脳血管疾患における死亡率の全国平均を100(基準値)として算出	目標	数値	男性115.3 女性132.1	男性111.6 女性127.3	男性107.8 女性122.5	男性104 女性117.7	男性100.0 女性113.2	
			実績		男性119.1 女性136.9	男性119.1 女性136.9				
			達成率		男性84% 女性82.7%	男性84% 女性82.7%				
メタボリックシンドローム該当者の割合		国保特定健診受診者のメタボリックシンドローム該当者割合	目標	割合	男性28% 女性11.5%	男性26.1% 女性10.7%	男性24.2% 女性10%	男性22.3% 女性9.2%	男性20.35% 女性8.4%	
			実績		男性29.8% 女性12.2%	男性31.5% 女性11.8%				
			達成率		男性68.2% 女性68.8%	男性88.8% 女性97.5%				
3歳児の虫歯がない者の割合		3歳児健診実績	目標	割合	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	
			実績		82.7	75.3		3.0		
			達成率		103.0%	94.1%				
睡眠で休養が十分取れている者の割合		国保特定健診受診者のうち、睡眠で休養が十分取れていると答えて人の割合	目標	割合	75.0	76.3	77.5	78.8	80.0	
			実績		73.8	74.9				
			達成率		92.2%	99.8%				
指標の分析	女性のお達者年齢は84.32歳と令和6年度の目標を達成し、また大分県の平均84.21歳よりも長くなりました。男性は県の平均79.60歳よりは短い状況ですが、年々、お達者年齢が延び、男女ともお達者年齢が長くなっています。一方、脳血管疾患標準化死亡比は、依然として全国の100に比べてかなり高い状況が続いています。特に女性の脳血管疾患の標準化死亡比が高くなっています。生活習慣病の予防には、日頃から健診を受け自分の健康状態を把握し、生活習慣の改善に努めることが大切です。しかしながら、特定健診の受診者のメタボリックシンドローム該当者は増加傾向にあります。メタボリックシンドロームを解消することは、将来の脳血管疾患の発症予防につながることから、メタボリックシンドロームの改善に向けた取組を強化する必要があります。									

<市民意識調査結果>

	領域名	必要度	満足度
市民意識調査結果(R2調査)	向上領域	2.60	2.19
	令和2年度実施のアンケート結果では、「必要度」「満足度」とも高く、「向上領域」に位置しており、取り組みの向上や維持が望まれています。		
市民意識調査結果分析	健康長寿を実現するためには、日頃から運動や食生活など規則正しい生活習慣を送り、定期的に健康診断を受け予防に努めることが大切です。「必要度」「満足度」とも高くはなっていますが、メタボの該当率は上昇し、健康状態が改善しているとは言えない状況です。市民一人ひとりが健康づくりに関心を持ち、取り組めるような施策を推進していきます。		

<次年度以降の課題>

令和3年度以降の課題	脳血管疾患の標準化死亡比は男女ともに高く、健康寿命の延伸のためには、脳血管疾患をはじめとした生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組が重要です。生活習慣病予防の第一歩は特定健診を受け、自分の健康状態を正しく知ることです。医療機関や健康管理センター等の関係機関と連携し、特定健診の受診勧奨を強化充実していく必要があります。また、子どもの頃から生涯を通じた生活習慣病予防対策が大切です。肥満の児童・生徒の出現率の減少に向け、子ども子育て課、教育委員会と役割分担をしながら、個別指導やポピュレーションアプローチに取り組む必要があります。
------------	--

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課 ※実施した課を記入	課の重点 ※運営計画記載	事業費(単位:千円)			課長評価	公共5カ年	他の関連施策コード
				R1年度実績	R2年度実績	R3年度見込み			
1 乳幼児等健康診査	4か月・10か月・1歳6か月・3歳6か月健診等乳幼児の健診実施や、妊婦健診の費用助成	子ども子育て課		22,963	20,000	23,990	継続		
2 乳幼児等訪問事業	生後4ヶ月を迎えるまでの乳児の保健師・看護師・栄養士等の全戸家庭訪問を実施	子ども子育て課		889	1,209	1,482	-		
3 予防接種事業	予防接種法による定期予防接種及び任意予防接種の費用助成を行っています。	子ども子育て課		85,426	85,426	96,205	継続		
4 がん検診事業	各種がん検診の実施	保険健康課	○	45,126	38,000	45,414	重点継続		
5 脳心血管病重症化予防事業	脳血管疾患のハイリスク因子である高血圧者への保健指導(訪問等)・精密受診勧奨の強化。	保険健康課	○	-	3,077	3,332	重点化		
6 特定健診特定保健指導事業	特定健診と特定保健指導の実施	保険健康課	○	33,058	37,223	38,125	重点継続		
7 食育推進事業	食育推進計画に基づく、関係機関と連携した食育推進のためのイベントの開催、白味の普及	保険健康課		137	90	229	重点継続		
8 子ども医療費助成事業	子どもの医療費を助成することにより、疾病の早期発見と治療を促進することを目的としています。	子ども子育て課		107,277	83,323	106,600	重点継続		
9 健康マイレージ事業	運動習慣の定着、健診受診を推進し、市民の健康意識の向上及び生活習慣の改善を図り、医療費の適正化及び健康寿命の延伸を目的とする	保険健康課		1,592	1,661	1,611	継続		
10									
合計				296,468	270,009	316,988			

<施策の今後の展開 ~担当課長評価>

進捗状況	白杵市国保被保険者の生活習慣病有病率は、県下でも常に上位を位置し、各種生活習慣病予防対策事業を行っています。高齢者になっても、生活習慣病になることなく、また、罹患したとしても重症化することなく、幼少期からの規則正しい生活習慣を身につかせることが最大の予防です。また、本市の児童生徒の肥満出現率は大分県や全国に比べ高く、早急な対策が必要とされ、学校健診のデータをもとに、将来にわたり生活習慣病発症につながるハイリスク者の児童に対し2次検査の実施に向け検討し、R2年度から開始することになりましたが、コロナ禍においてすべての事業進捗が遅れている。新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、各事業の実施方法や範囲等修正を加えながら取り組んでいかなければならないが、まずは新型コロナウイルス感染症の抑え込み、今後の事業を検討することが重要である。	課長評価	最重点施策であり、来年度強化する
------	---	------	------------------

<施策の今後の展開 ~内部評価(内部検討会)>

内部評価	指標の結果等により、さらなる取り組みの強化を実施しているため。
最重点施策であり、来年度強化する	

<白杵市行政活性化推進委員会による外部評価:最終>

評価のコメント	外部評価
メタボリックシンドローム対策としての生活習慣の改善や朝食の摂取の推進などは、子どもから行うことが大切であるため、取り組んでほしい。メタボリックシンドローム対策は、その名称の親しみやすさや学校教育等であまり扱われていないことなどから、その深刻さが伝わらないように感じる。	強化

<白杵市行政活性化推進委員会を受けての市の取組>

幼少期からの対策が必要であることを承知している。家庭での教育が必要となってくると思うので、教育委員会と連携し、現状を把握しながら、取り組みの推進に向け啓発等を行ってきたい。